

6 病害虫診断依頼結果

月日	作物名	発生場所	症状等	診断結果
平成24年3月29日	水稻粳	塩谷町肘内	あさひの夢種子を温湯消毒(60℃7分間)。1週間浸種、水は毎日交換。23～25℃48時間で催芽した。催芽終了後に籾に白い菌糸が付着。	PDA及び素寒天培地で培養後、菌糸等を検鏡したが、病原菌は認められなかった。病害によるものではないと診断。
4月25日	イチゴ	-	直売所のいちごパック内に微小な虫が混入。	検鏡の結果、キノコバエ類などハエ目の幼虫と診断。
4月9日	イチゴ	-	葉縁の黄化、葉の展開遅延。	BLOの可能性があったため遺伝子診断(PCR法)を実施。その結果、特異的な増幅は認められなかった。その後株の回復が認められたことから生理障害(凍み症)と診断。
4月10日	冬春トマト	宇都宮市上籠谷町	葉にえそ症状、黄化。	Agdia社製イムノストリップ(TMV)による診断は-。症状から生理障害と診断。
4月13日	冬春トマト	大田原市蛭田	中段の葉位で黄化、苦土欠乏症に似る。	遺伝子診断の結果、ToCV(トマト黄化病)が検出された。
4月19日	冬春トマト	宇都宮市	葉にえそ症状、黄化(2サンプル)。	Agdia社製イムノストリップ(TMV)による診断は-。症状から生理障害と診断。
4月19日	カリブラコア	日光市	葉にウイルス病に似た症状。	Agdia社製イムノストリップ(CMV)による診断は-。遺伝子診断ではTospovirus属のウイルスは検出されなかった。病害虫によるものではないと診断。
4月24日	きゅうり	真岡市亀山	定植直後、地際部がくびれ、枯死する症状が認められた。	土壌pH7.2 EC0.2 定法により組織分離した結果、Pythium属菌が分離された。
4月25日	冬春トマト	宇都宮市氷室町	葉にえそ症状、黄化。	Agdia社製イムノストリップ(TMV)による診断は-。遺伝子診断ではTobamovirus属のウイルスは検出されなかった。症状から生理障害と診断。
	冬春トマト	宇都宮市上籠谷町	葉にえそ症状、黄化。	Agdia社製イムノストリップ(TMV)による診断は-。遺伝子診断ではTobamovirus属のウイルスは検出されなかった。症状から生理障害と診断。
5月10日	ナシ	佐野市	果そう部にしおれや黒変枯死。	組織分離及び遺伝子診断の結果、Phytophthora cactorum(疫病)と診断。
5月11日	水稻	岩舟町	あさひの夢、コシヒカリの苗で下葉の枯れ、坪枯れ症状(細菌病疑い)。	もみ枯れ細菌病、苗立枯細菌病選択培地で陰性。症状から老化苗と診断。
5月11日	水稻	茂木町	播種後15～20日頃からつぼ状に生育不良、伸長停止、褐変症状。	組織分離し、Fusarium属菌による苗立枯病と診断。
5月15日	バラ(RW)	上三川町	葉先に水浸状の枯れ。	養液のEC、pHを測定した結果、高ECであったことから濃度障害と診断。
5月18日	ナシ	-	スモモヒメシクイのフェロモントラップに小蛾類が複数誘殺されたが、スモモヒメで良いのか?との問い合わせ。	翅の斑紋や体長から、ネモロウサヒメハマキと同定。
5月18日	ナシ	-	ナシ園に設置した粘着トラップについてハエ目について。	複数種のアエ目がかかっていたが、ナシシクイタマバエと思われるタマバエ類を複数確認。
5月23日	イチゴ	上三川町	いちご葉(i27)に連続した奇形葉症状(萎黄病)症状が認められる。なお、導管部の褐変は認められず、軽微なシミ症状が認められた。	定法により組織分離を行ったが何も分離されなかった。生理的障害による可能性が高いと診断。
5月25日	りんどう	塩谷町肘内	葉に明瞭な輪紋症状やえそを伴ったウイルス症状が認められた。	Agdia社製イムノストリップ(TSWV)による診断は陽性。RT-PCRでもTSWVが検出され、りんどうの新病害であると診断。
5月25日	スプレーギク	塩谷町肘内	葉及び茎にえそを伴う症状が認められた。	RT-PCRによりギク茎えそ病(CSNV)であると診断。
5月31日	しゃくやく	那須烏山市三箇	葉、茎にしおれ症状が認められる。地際部にしみ状の黒変。	定法により組織分離をした結果、Sclerotinia属が分離され(菌核を形成)、「菌核病」と診断。
5月31日	しゃくやく	那須烏山市三箇	株全体が萎縮、新葉に黄化症状。前年から発生が見られる。	ファイトプラズマの可能性があったため遺伝子診断(PCR法)を実施。その結果、特異的な増幅は認められなかった。実態顕微鏡での観察でホコリダニ類が認められたため、ホコリダニ類による萎縮と診断。
6月1日	きゅうり	宇都宮市	ネコブセンチュウの症状(種の同定)。	検鏡の結果、サツマイモネコブセンチュウと診断。
6月4日	イチゴ	真岡市	イチゴクラウン部から生じた白色の菌叢(エタノール浸漬簡易診断法試料)。	検鏡と遺伝子診断の結果、病原性を持つ炭疽病と診断、その他F.moniliformeも確認。
6月7日	きゅうり	那珂川町	収穫数日後に果実の一部が肥大、黄化する症状が見られる。なお、ほ場内では果実への上記症状は見られない。また、葉への症状も一切認められない。現場からウイルスの確認をしてほしいとの要請あり。	キュウリウイルス病(TSWV)、キュウリモザイク病(CMV、WMV、ZYMV)、キュウリ緑斑モザイク病(CGMMV)、キュウリ黄化病(BPVV)、キュウリ退緑黄化病(ccyv)、キュウリ黄化えそ病(MYSV)についてRT-PCRおよびAgdia社製イムノストリップで検定した結果、ウイルスは検出されず、本症状は生理障害によるものであると診断。

6月8日	ナシ	鹿沼市栃窪	葉に多数の黒点。	検鏡の結果、分生子の形状から黒星病と診断。
6月12日	こんにゃく	市貝町羽仏	貯蔵後の種いもで植え付け前に芽が腐る。	組織分離により <i>F.solani</i> (乾腐病)と診断。
6月13日	ナス	さくら市下河戸	半促成なすにおいて、株の半分が枯れる症状が認められた(穂木:あのみり、台木:台太郎)。なお、本症状は気温の上昇とともに改善した。	定法により組織分離した結果、 <i>F.oxysporum</i> が分離された。 外観症状等から半枯病であると診断。
6月14日	トマト	大田原市	葉の色が抜けるとともに、特に先端部が紫色になっている。株の発育は悪化している。	地際部に虫によると考えられる食害痕がみられたこと、前作終了後、そのまま苗を定植したとのことから、ヤガ類による被害と診断。
6月15日	ルリタマアザミ	さくら市早乙女	中段の葉位が黄化、花の首が垂れる症状。	定法により組織分離した結果、 <i>F.oxysporum</i> が分離された。
6月15日	水稻	小山市生井	普通植の苗で、葉が褐変。	検鏡の結果、いもち病胞子を確認。
6月21日	ナシ	大田原市湯津上	ナシ果実に虫の食害。ナシヒメシクイの被害に似るが、ウジ状の幼虫が見られる。	羽化させることで、ショウジョウバエ科の一種と確認。また、ナシヒメシクイ幼虫も見られたことから、ナシヒメシクイ加害部位に、ショウジョウバエが2次的に寄生したものと考えられた。
6月22日	ナス	-	露地なす(小なす)において、株のしおれ、生育不良が認められる。導管部の中心部にシミ症が認められる。	定法により組織分離したが、病原菌等は分離されなかった。 なお、土壌pH7.5 EC0.3とpHが高いことから、それらが原因ではないかと考えられた。
6月26日	トマト	宇都宮市東木代	葉の黄化、地際部の褐変。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium solani</i> が高率に分離され、フザリウム株腐病と診断。
6月26日	ナス	真岡市長田	下葉の黄化症状、半身萎凋病の疑い	定法により組織分離をした結果、細菌が多数分離された。また、症状及びコロニーの形状からナス茎えそ細菌病の可能性が高いと診断。
6月26日	ナス	大田原市荒井	露地なすにおいて、葉のしおれ、生育不良が認められる。導管部に褐変が認められる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Verticillium</i> 属菌が分離され、ナス半身萎凋病と診断。
6月27日	キク	塩谷町大宮	下葉から葉のしおれ、黄化や枯れ。	定法により組織分離をした結果、 <i>F.oxysporum</i> が高率に分離され、キク萎凋病と診断。
6月29日	リンゴ	矢板市長井	枝の表面に、橙色の糸状菌が見られる。赤衣病の疑い	菌糸の形状等の状況から赤衣病と考えられた(担子胞子は確認できなかった)。
6月29日	サツマイモ	壬生町	株の萎縮、縮葉、葉の斑点 モモアカアブラムシ。	遺伝子診断(PCR法)の結果、SPFMV(サツマイモ斑紋モザイクウイルス)が検出された。 サツマイモ斑紋モザイクウイルスと診断。
7月2日	水稻	益子町	徒長株、株元に白いカビ。	組織分離により、(ばか苗病)と診断。
7月4日	イチゴ	高根沢町	株の萎縮、一部葉の奇形、ランナーが伸びない。根冠部の中心が褐変。根が黒色で新根が非常に少ない。上位部では健全。	根冠部、根の状況及び組織分離の結果から、生理障害(凍み症)の可能性が高いと診断。
7月4日	ユリ	那須烏山市	地際部に褐変、腐敗症状。	ネダニ類が根部、茎内部に多数寄生しており、食害部から細菌が侵入したと考えられる。
7月5日	ブドウ	宇都宮市	葉に褐色の斑点。	定法により組織分離をした結果、 <i>Pseudocercospora</i> 属が分離され、ブドウ褐斑病と診断。
7月9日	ショウガ	県内各地	種根茎定植後の出芽不順。根茎部が軟化し、維管束は繊維を残してとろけた状態。	定法により組織分離をした結果、 <i>F.oxysporum</i> 、 <i>F.solani</i> が高率に分離され、ショウガ立枯病と診断。
7月11日	ゴーヤ	上三川町	地上部の萎れ、根が黒色腐敗	根部組織の検鏡、組織分離の結果から、ホモブシス根腐病と診断。
7月17日	水稻	-	白い1cmほどの塊が浮いている。害虫か?	孵化幼虫からガムシの卵のうと同定。
7月18日	ナシ	大田原市	苗木で枯れる症状。白紋羽病の疑い。	罹病した根部(表皮下)に拡がった菌糸を検鏡した結果、白紋羽病菌を確認。
7月18日	ミニトマト	上三川町	葉にえそ症状、果実が汚れたように着色(褐色、筋状)	Agdia社製イムノストリップ(TMV, CMV)による診断は-。タバコへ汁液接種したが、ウイルス病の症状は認められなかった。
7月19日	ユリ	那須烏山市	茎の中段が水浸状となり、そこから折れる。	定法により組織分離をした結果、複数種の細菌が高率に分離され(糸状菌の分離なし)、細菌による腐敗と診断。
7月19日	ケイトウ	-	地際部が黒変、陥没。症状がひどいものは維管束が褐変。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌(2種)が高率に分離され、ケイトウ立枯病と診断。
7月19日	イチゴ	栃木市	葉の奇形、黄化。クラウン部中心が褐変。	定法により組織分離をした結果およびクラウン部の症状から、病害による可能性は低く、生理的な要因によると診断。
7月25日	カーネーション	芳賀町	立枯れ症状。節に菌糸が見られる。地際部がやや褐変。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌(<i>F.avenaceum</i> ?)が高率に分離され、カーネーション立枯病と診断。
7月30日	イチゴ	鹿沼市	葉の奇形、黄化。クラウン部中心が褐変。	簡易診断での菌糸を検鏡し、遺伝子診断をした結果、病害による可能性は低く、生理的な要因によると診断。

8月2日	イチゴ	益子町	葉の奇形、黄化。クラウン部全体が褐変。	定法により組織分離をした結果およびクラウン部の症状から、病害による可能性は低く、生理的な要因によると診断。
8月2日	大豆	栃木市	突然のしおれ、地際部に白っぽいカビが見える。	湿潤条件で白い菌糸と菌核を形成したため、白絹病と診断。
8月2日	水稲(玄米)	芳賀郡内	貯蔵中の玄米から異臭。玄米表面に黒いカビのようなものが見える。	検鏡により黒カビ(<i>Aspergillus</i> 属)と診断。
8月6日	イチゴ	壬生町	苗の生育不良、葉の斑。	クラウン部、根部の状況から生理的なものと診断。
8月8日	水稲	下野市(旧南河内町)	黄化、萎縮、葉身の幅が広い。	葉身の病徴部を数日水に浸漬し、卵胞子を確認。黄化萎縮病と診断。
8月17日	イチゴ	下野市	苗の葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を検鏡した結果、炭疽病菌の分生子を確認。イチゴ炭疽病と診断。
8月17日	ナシ	-	埋没したナシ枝の表面の白色のカビ	白紋羽病菌、 <i>Fusarium</i> 属菌等の菌糸・胞子を確認。
8月17日	大豆	小山市	7月下旬から縮葉が坪状に発生。その後は場の1/3程度まで拡大。	CMVは陰性。生理的な要因によるものと診断。
8月20日	イチゴ	栃木市	株の生育不良。根部の伸長が悪い(新根が少ない)。クラウン部は不明瞭な褐変。	定法により組織分離をした果、病原菌は検出されなかった。栽培管理の状況から肥料過多によるものと考えられた。
8月23日	イチゴ	鹿沼市	苗の葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を検鏡した結果、炭疽病菌の分生子を確認、イチゴ炭疽病と診断。
8月23日	イチゴ	佐野市	苗の葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を検鏡した結果、炭疽病菌の分生子を確認、イチゴ炭疽病と診断。
8月23日	イチゴ	佐野市	新葉の奇形。	病原菌は分離されなかった(サンプルが高温により蒸し込まれていたため)。
8月29日	トマト	宇都宮市	葉裏に光沢がある染み状の褐変。	定法により組織分離をした結果、特定の病原菌は未分離。PCRを実施した結果、ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅が認められた。
8月30日	ユリ	那須烏山市	地際部の褐変、地表面に白い菌糸と褐色の菌核。	菌核、症状から白絹病と診断。
8月30日	水稲	益子町	変色籾(茶～紫色)。	選択培地と細胞学的性状の検査の結果、イネ内穎褐変病(<i>Erwinia anans</i>)が優先して見られた。
9月4日	トルコギキョウ	佐野市	地上部の萎凋、青枯病の疑い。	イムノストリップ(Rs)は-。組織分離により得られたコロニーをAPIで簡易診断した。その結果、萎凋細菌病の可能性が高いと考えられた。糸状菌の分離なし。
9月6日	イチゴ	大田原市	新葉の黄化、奇形。	組織分離と遺伝子診断の結果、 <i>F.oxysporum</i> による萎黄病と診断。
9月7日	水稲(コシヒカリ)	那須烏山市	7月下旬頃から下葉の枯れ。下位葉鞘から株の中ほどまで茶色で楕円形の斑紋、茶色で1mm弱～2mmの菌核が発生。	症状と菌核、菌糸の形状から紋枯病と診断。
9月7日	ブドウ	宇都宮市	枝の表面に白いカビ。	検鏡、病徴の観察からうどんこ病、べと病等の病原菌は認められなかった。雑菌によるものと考えられた。
9月7日	トルコギキョウ	小山市	定植1か月後から株枯れ症状。	定法により組織分離をした結果、数種の糸状菌が分離され、症状から <i>Pythium</i> 属による立枯れと診断。
9月7日	イチゴ	岩舟町	苗の葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を検鏡した結果、炭疽病菌の分生子を確認、イチゴ炭疽病と診断。
9月7日	イチゴ	佐野市	苗の葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を検鏡した結果、炭疽病菌の分生子を確認、イチゴ炭疽病と診断。
9月7日	イチゴ	佐野市	新葉の黄化、奇形。	組織分離と遺伝子診断の結果、 <i>F.oxysporum</i> による萎黄病と診断。
9月7日	イチゴ	佐野市	苗の葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	定法により組織分離をした結果、 <i>Colletotrichum</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、炭疽病と診断。
9月7日	イチゴ	佐野市	苗の葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	定法により組織分離をした結果、 <i>Colletotrichum</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、炭疽病と診断。
9月7日	イチゴ	佐野市	新葉の黄化、奇形	組織分離と遺伝子診断の結果、 <i>F.oxysporum</i> による萎黄病と診断。
9月7日	イチゴ	佐野市	育苗床において、葉の萎れが見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、萎黄病と診断。
9月7日	いちご	足利市	育苗床において、葉の奇形、枯死株が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、萎黄病と診断。

9月12日	いちご	壬生町	採苗後の親株の萎れ。	定法により組織分離をした結果、特定の病原菌は分離されなかった。高温や葉かき等によるものと判断(生理障害)。
9月12日	いちご	真岡市	育苗床において、葉の奇形、枯死株が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、萎黄病と診断。
9月12日	いちご	真岡市	苗の生育が悪く、奇形葉等の症状が見られる。	病原菌等は分離されなかった。採苗時期が遅く、活着不良等があったとのことで、生理障害として診断。
9月13日	ミニトマト	鹿沼市	地際部がくびれて、立ち枯れ症状が見られる。	<i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。
9月13日	イチゴ	栃木市	新葉の萎縮、黄化、奇形。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、萎黄病と診断。
9月13日	トマト	宇都宮市	葉裏に光沢がある染み状の褐変。	PCRを実施した結果、ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅が認められた。
9月13日	トマト	宇都宮市	葉裏に光沢がある染み状の褐変。	PCRを実施した結果、ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅が認められた。
9月13日	トマト	宇都宮市	地上部の黄化(局部)。半身萎凋病の疑い。	定法により組織分離をした結果、特定の病原菌は分離されず、病害の可能性は低いと考えられた。
9月18日	イチゴ	小山市	苗の萎凋。葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を鏡検した結果、炭疽病菌の分生子を確認。
9月18日	イチゴ	壬生町	苗の萎凋。葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を鏡検した結果、炭疽病菌の分生子を確認。
9月19日	イチゴ	益子町	新葉の黄化、奇形。	定法により組織分離をした結果、病原菌は分離されず、病害の可能性は低いと考えられ
9月19日	トマト	上三川町	葉上のえそ。	PCRを実施した結果、ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅が認められた。
9月19日	トマト	栃木市	葉上のえそ。	PCRを実施した結果、ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅が認められた。
9月20日	-	宇都宮市	庭にダニのような虫が多く発生しているが、何か？	農作物につくダニではなく、動物性のマダニ類。犬を飼っており、最近死んでしまったとのことから、寄生していたものが離れたものと思われる。
9月21日	イチゴ	那珂川町	葉上に黒点、葉柄には陥没病斑。	病斑部を鏡検した結果、炭疽病菌の分生子を確認、イチゴ炭疽病と診断。
9月21日	輪菊	大田原市	地際部と根に褐変が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。PCR結果からと <i>Pythium helicoides</i> が原因であると診断。
9月24日	イチゴ	真岡市	新葉の萎縮、黄化、奇形。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、萎黄病と診断。
9月25日	イチゴ	鹿沼	定植後の萎凋。	定法により組織分離をした結果、病原菌は未分離、病害虫ではないと診断した。
9月25日	輪菊	大田原市	地際部と根に褐変が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。PCR結果から <i>Pythium helicoides</i> が原因であると診断。
9月25日	ブロッコリー	大田原市	花蕾の黒褐色腐敗、葉身の黒色褐変、葉に黒色斑点病斑が見られる。	病斑部分の鏡検では、 <i>Alternaria</i> 属菌が確認される。また、組織分離した結果、高率に <i>Alternaria</i> 属菌が分離されたため、外観症状と併せて黒すす病と診断。
9月27日	トマト	鹿沼市	第1段花、低位葉に黄化、えそ症状。上位葉は正常。	イムノストリップ(CMV, TMV, Cmm)は-。ToMVについても検出されなかった。病害の可能性は低いと診断(生理障害)。
10月2日	トマト	壬生町	小葉の萎れ、葉縁の褐変。	イムノストリップ(Cmm)は+。組織分離により同一のコロニーが効率的に分離され、形状及びグラム反応からかいよう病と診断。
10月2日	トマト	栃木市	生長点に不明瞭なモザイク症状。黄化葉巻病の疑い	遺伝子診断の結果、TYLCVの増幅は認められず、生理障害と診断。
10月2日	トマト	小山市	下葉の黄化、腐敗。	害虫による食害に細菌が二次的に侵入したと考えられた。
10月3日	イチゴ	真岡市	生育不良、軽度の萎れ。	クラウン部の褐変(病斑)、鏡検結果から炭疽病と診断。
10月4日	輪菊	大田原市	地際部と根に褐変が見られる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離された。PCR結果からと <i>Pythium helicoides</i> が原因であると診断。
10月4日	リンドウ	那須町	①下葉の表面に白いかび。②株全体の葉に斑点、輪紋状の褐変。③生長点付近の萎れ(茎が褐変)。④花の腐敗。	鏡検及び組織分離の結果、①褐斑病、② <i>Alternaria</i> 属による褐変、③病害可能性が低い、④花腐菌核病もしくは二次的な細菌の侵入、と考えられた。

10月5日	イチゴ	佐野市	ランナーの一部が黒変。	検鏡の結果、炭疽病の分生子は認められず、風などで擦れたものと考えられた。
10月5日	トマト	芳賀町	新芽の萎縮、黄化が見られる。	遺伝子診断の結果、トマト黄化葉巻病と診断。
10月9日	トマト	宇都宮市	中位段の葉上にえそ、斑点がみられる。	検鏡での細菌の流出はなく、組織分離の結果でも病原菌は分離されなかった。イムノストリップ(TMV)は-。PCRでもToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅は認められなかった。病害の可能性は低いと考えられた。
10月12日	イチゴ	佐野市	葉上の斑点、褐変。	検鏡での細菌の流出はなく、組織分離の結果、病原菌は見られなかった。高温時の薬剤散布による薬害と考えられた。
10月16日	カーネーション	那珂川町	葉、茎(節)の黒変と枯れ上がり。	検鏡及び組織分離の結果、 <i>Alternaria</i> 属が認められ、斑点病と診断。
10月16日	トマト	-	地際部の褐変。	検鏡、簡易診断、病徴の観察から <i>Fusarium</i> 属菌が認められ、フザリウム株腐病と診断。
10月16日	トマト	壬生町	下葉の黄化、褐変。	栽培環境、発生状況から病害の可能性は低いと考えられた。
10月18日	スイトピー	宇都宮市	地際部、根の褐変。	定法により組織分離をした結果、 <i>F.oxysporum</i> が高率に分離された。
10月19日	トマト	上三川町	葉裏、葉脈のえそ(2サンプル)。	検鏡では細菌、糸状菌は認められず、ウイルス(ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属))は検出されなかった。栽培環境、発生状況から薬害の可能性が高いと判断した。
10月23日	イチゴ	鹿沼市	新葉の萎縮、黄化、奇形。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> が高率に分離され、PCR結果と併せて、萎黄病と診断。
10月24日	トマト	栃木市	葉裏、葉脈のえそ(2サンプル)。	PCRを実施した結果、①マイロックではToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅が認められず、②シリアンルージュでは認められた。
10月24日	トマト	栃木市	下葉の黄化、葉脈のえそ。前年度にToMV発生。	PCRを実施した結果、ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属)の増幅が認められた。
10月24日	トマト	栃木市	下葉の黄化、萎れ。	イムノストリップ(Cmm)は+。組織分離により同一のコロニーが効率的に分離され、形状及びグラム反応からかいよう病と診断。
10月24日	トマト	宇都宮市	中位の葉裏、葉脈にえそ。	検鏡では細菌、糸状菌は認められず、ウイルス(ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属))は検出されなかった。栽培環境、発生状況から薬害の可能性が高いと判断した。
10月24日	トマト	宇都宮市	株全体の黄化。	検鏡では細菌、糸状菌は認められず、ウイルス(ToCV)は検出されなかった。黄化した部分に多数のハダニ類が寄生しており、ハダニ類の被害と考えられた。
10月24日	たまねぎ	-	苗の葉先の枯れ、黒色の病斑。	組織上に黒い剛毛、俵状の分生子が認められることから、炭疽病と診断。
10月24日	トマト(RW)自根	塩谷町	株の萎れや萎凋枯死。自根栽培	定法により組織分離をした結果、 <i>F.oxysporum</i> が高率に分離された。病徴とあわせてトマト萎凋病と診断。
10月26日	輪菊	塩谷町	茎の部分的な褐変、枯死。	PCRを実施した結果、TSWV、CSNVの増幅は認められなかった。また、定法による組織分離では病原性のある糸状菌は確認できなかったが、症状から半身萎凋病が疑われた。
11月1日	輪菊	矢板市	地際部に褐変、枯死。	定法により組織分離をした結果、 <i>F.solani</i> が高率に分離された。
11月1日	ねぎ(ハウス軟白)	大田原市	株の萎凋枯死。	定法により組織分離をした結果、 <i>F.oxysporum</i> が高率に分離された。病徴とあわせてネギ萎凋病と診断。
11月6日	トマト	上三川町	中位の葉裏、葉脈にえそ(畝に沿って数株)。	検鏡では細菌、糸状菌は認められず、ウイルス(ToMV(<i>Tobamovirus</i> 属))は検出されなかった。病害の可能性は低いと診断。
11月9日	いちご	-	ほ場内に小甲虫が大量に発生している。	写真からスナゴミシダマシ類と同定。腐植を餌とするため、ほ場内外の堆肥などから発生したと思われる。ゴミシダマシの間では、コホネゴミシダマシによる熟果食害の記録があるものの、本種は問題無いと考えられることを伝えた。
11月14日	きゅうり	小山市	株の萎凋枯死。導管の褐変が認められる。	定法により組織分離をした結果、 <i>F.oxysporum</i> が高率に分離された。病徴とあわせてキュウリつる割病と診断。
11月19日	いちご	真岡市	株の萎れ症状。	検鏡、組織分離の結果、炭疽病と診断。
11月22日	イチゴ	鹿沼市	葉の奇形、一部株の萎れ。	組織分離とPCRを実施した結果、炭疽病と診断。

11月26日	トルコギキョウ	佐野市	地上部の萎凋枯死。品種によって症状が異なる(2品種)。 ①ウミホノカは地際部が褐変、腐敗。②セレププリンスは茎の導管部、根部に褐変。どちらも水中で菌泥を確認。	イムノストリップ(Rs)は-。定法により組織分離をした結果、① <i>Rhizoctonia</i> 属菌が高率に分離され、株腐病と診断。②特定の病原菌は分離されなかった。
11月26日	トルコギキョウ	小山市	地際部が褐変、腐敗。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium</i> 属菌が高率に分離され、病斑部の検鏡、病徴とあわせてトルコギキョウ立枯病と診断。
11月26日	トルコギキョウ	小山市	地上部の萎れ。細根に褐変が認められる。	定法により組織分離をした結果、 <i>Pythium</i> 属菌が高率に分離され、病徴とあわせてトルコギキョウ根腐病と診断。
11月30日	イチゴ	栃木市西方	株の生育不良(株が小さい)	定法により組織分離をした結果、特定の病原菌は分離されなかった。
11月30日	いちご	-	芽部が奇形化、メセンチュウの被害に似る。地下部も根腐れのような症状を呈する。土耕ほ場。	被害部の奇形と赤色化、センチュウ類がみられないこと、クラウン部にクロバネキノコバエ科の幼虫が多数見られたことから、クロバネキノコバエ科(チビクロバネキノコバエ)の被害と診断。
12月5日	いちご	栃木市	果実、果柄に褐変が見られる。萼基部に白い綿状の菌糸が確認される。	定法により組織分離をした結果、 <i>Sclerotinia</i> 属菌が高率に分離される。病徴と分離結果からイチゴ菌核病と診断。
12月7日	いちご	-	果実に食害痕と、周辺に微小な虫がみられる。	写真と動画から、現時点で食害しているのはトビムシ類であるが、食害痕の周辺に一回り大きな虫糞がみられるため、オオタバコガの食害痕に二次的についたものと診断した。
12月7日	トマト	鹿沼	生長点付近のモザイク状の症状。	イムノストリップ(CMV、TMV)、遺伝子診断(TYL CV)の結果-。生理障害と診断。
12月13日	いちご	鹿沼	新葉の奇形とクラウン部の一部に褐色のコルク化やしみ症状が認められ。また、維管束の一部も褐変が認められる。	定法により組織分離をした結果、低率ではあるが <i>Fusarium</i> 属菌が分離された。PCRした結果、 <i>F. oxysporum</i> であったが、いちご萎黄病ではなかった。その他病原菌等は分離されなかったことや、本症状が外的要因により発生したものとも考えられたため、本症状は病害虫によるものではないと診断。
12月19日	カーネーション	さくら市氏家	10月頃から徐々に上部に萎れ症状が発生し、最終的には株全体が萎凋。発生源から周囲に広がっている。	定法により組織分離をした結果、 <i>Fusarium oxysporum</i> が高率に分離される。PCRの結果も <i>F. oxysporum</i> であった。病徴と分離およびPCRの結果からカーネーション萎凋病と診断。
12月25日	トマト	小山市武井	生長点付近のやなぎ葉(糸葉症状)ホルモン障害に似ているがホルモン処理はしていない。全体2000株中、20~30株で発生見られる。	イムノストリップによりCMV陰性 グルチノーザー、ベンサミアナに汁液接種した が陰性 ウイルス病等、病害虫によるものではないと診断。
12月25日	トマト	野木町	10月下旬頃から黄化してきた。候pHや鉄欠を疑ったが症状が改善されない。	イムノストリップによりTMV陰性 RT-PCRした結果、ToMV、ToCV陰性 ウイルス等、病害虫によるものではないと診断。
12月25日	トマト	大平町	開花段の3段下(収穫段の2~3段上)まで黄化している。ハウス全体に出ており、ベットの差はない。	イムノストリップによりTMV陰性 RT-PCRした結果、ToMV、ToCV陰性 グルチノーザー、ベンサミアナに汁液接種した が陰性。ウイルス病等、病害虫によるものではないと診断。